

温暖化と寒冷化の経済現象の史的分析――地球経済の2つの未来予想図――

Two future economic worlds by global warming or cooling in 21 Century

清家 彰敏 [1]

Akitoshi Seike[1]

[1] 富山大・経済

[1] Univ. of Toyama

本報告は、世界、アジア、日本における歴史的事象を、経済視点から温暖化、寒冷化の結果として説明することを試みる。次に、近未来における温暖化、寒冷化が世界、アジア、日本においてどのような経済現象を発生させ、地球経済において「温暖化、寒冷化それぞれに楽観・悲観の2つの未来予想図」を現出させるかについて予想する。未来予想図は4つ描けることになる。

さて、温暖化、寒冷化は世界歴史において変化のトリガーとなったことが指摘されている。一般に温暖化が進むと利用可能な資源が豊富になり、リーダーシップにおける分散化が起こる。寒冷化が進むと資源が不足し、リーダーシップにおける集中化が起こる。欧州における絶対王政の登場を寒冷化における中央集権化のスパイラルで説明しようとする試みもその一つである。日本の未来のひとつ例えば、道州制について考えてみよう。温暖化が進む未来での「道州制」は、現在政府が構想しているような単なる地域統合の未来予想図も考えうるが、寒冷化が進む未来であれば、「経済的に優位な地域による弱体自治体の解体吸収」といった構図のほうが合理性があるとも考えられる。